第1回 伊賀市少子化対策推進委員会会議録

会議名 平成30年度第1回伊賀市少子化対策推進委員会
日時 平成30年7月20日(金) 午後2時から4時
場所 伊賀市役所本庁2階 第1委員会室

出席委員 奥委員、松本委員、福永(悦)委員、山中委員、福井委員、小原委員、中岡委員
土永委員、佐治委員、山本委員、福島委員、東委員、森田委員、長野委員
福永(富)委員、須永委員
傍聴者 なし

(開会)

ただいまから第1回伊賀市少子化対策推進委員会を開会します。

はじめに定数確認をします。全委員18名のうち現在15名の委員のご出席、1名が遅れて出席いただきます。伊賀市少子化対策推進委員会条例第6条第2項に定める出席者が委員の半数を超えていますので、会議は成立していることをご報告申し上げます。また、この委員会は伊賀市情報公開条例第24条に基づき、会議の公開を行うことと、審議会等会議の公開に関する要綱第8条に基づく議事概要(会議記録)作成のため、録音をさせていただきますのでご了承いただきたいと思っております。それでは、会議に先立ちまして、田中健康福祉部長からご挨拶させていただきます。

(健康福祉部長挨拶)

続きまして、少子化対策推進委員会の改選により新しくご就任いただきました委員をご紹介させていただきます。

(委員紹介)

それでは、議題に入ります前に本日の資料の確認をお願いします。

(資料確認)

それでは、議事進行につきましては、須永委員長にお願いしたいと思います。
須永委員長、よろしくお願いします。

2. 議 題

(1) 子ども・子育て支援事業計画【2017(平成29)年度】事業進捗状況について
「資料1」「資料1-1」

委員長：第1回目の会議になります。よろしくお願いします。手元にあります事項書を見てください。2. 議題の(1)事業の進捗状況について説明をいただき議論をしていきたいと思っております。それでは説明をお願いします。

(事務局説明)

委員長：全体を見ると分量が多いので分けて議論したいと思います。1ページから10ページ、1地域における子育て支援事業の充実です。ご質問等があれば挙手してください。
説明いただいた、評価、実績を見ると、AAから、D、Eと達成率が表されていますし、実際に

は数に隔たりがあるものがあります。そのあたりも含めてご質問、ご意見を聞かせてください。

この計画は31年度が5ヵ年計画の最後の年ですので、目標値がそこに達していくのが前提で、今はその途中にありますので考慮いただければと思います。評価を見るとA評価、100パーセント実施されているところもありますし、まだそこまでいかない事業もあるというところが議論の対象となると思います。いかがでしょうか。

委員：5ページ23番「学習支援教室ささゆり」ですが、評価ができないとはどういうことですか。

事務局：この事業は、当初目標設定するときに、何人を目標に受け入れるのではなく、該当は全て対応することで、目標を設定しない事業としています。1,070人の実績がありました。目標設定がないため評価されない事業となります。

委員長：指標が示されていないので、評価できないということです。ほか、いかがでしょうか。

委員：2ページ7番、8番、子どもが保育園に通っていますが、外国人のお子さんが多い保育園で、10カ国位います。子どもたちは日本語を話せるが、行事のことで保護者とコミュニケーションを取ると、話せる方もいるが分かりにくい方もいて、通訳がいたらと感じることがよくあります。どこに頼めばよいのか、小学校の先生にも聞いたが、解決方法がないと感じたことがあります。

事務局：翻訳については、保育幼稚園課でポルトガル語の通訳1人を臨時職員で雇用し、行事があるときや、保護者の方へのお知らせの文書などを翻訳しお渡ししています。公立はそうだが、私立の保育所については、事業協会の先生がいらっしゃるの、すいません、教えてください。

委員：事業協会では、NPO伊賀の伝丸から1人、みどり保育園を拠点とした契約を結んでいます。週に2回の朝夕に、事業協会の中で必要ある園を順番に来てもらっている。園長先生に相談したら通訳の方に、行事のご案内をしていただいたりできると思います。

委員長：ポルトガル語のお話はありましたが、それ以外の言語の方もいらっしゃいますか。

委員：たくさんいらっしゃいます。兄弟がいるご家庭は、お兄ちゃん、お姉ちゃんが通訳してくれるが、文書を読むのが難しいようで回答が返らないことが多いです。

委員長：解決の方向へいかないと、問題が起きた時に対応しきれないのではないかと思います。

7ページ36番、病児病後児保育事業、スタッフ確保に努めているとあるが、今後どういう見通しがありますか。お子様がいる方は関心があると思われれます。

事務局：保育士1名と看護師2名おり、通常、保育士と看護師が各1名ずつ2名体制で実施しています。都合がある場合の人材の確保が必要と考えているが、今はこの体制で何とか実施しているので、受け入れについては問題ないと考えています。更に周知の必要があると考えています。

委員：孫が病気になり私も在職中で預けたいと思ったが、当時インフルエンザが流行中で、病気の状態で預けられなかった。利用したくても病状により預けられないこともあり、D評価でも仕方がない状況もあると思います。

委員長：キャパシティはどのくらいなのか。感染症が流行るとそういうこともあるかと思う。

委員：1日概ね3名までと規定を設けており、ご利用いただく前には、病院を受診し病状についてご利用できる状態かどうかを医師連絡表に記入いただきます。インフルエンザなどでは罹ったすぐは他の児童にも感染するかというところも連絡表で確認した中で判断し、その時はお断りさせていただいたのだと思います。感染のおそれがある場合は別室で保育しており、なるべくニーズにお答えできるように対応したいと考えているが、お断りをするケースもある状況です。

委員長：子育て中の人は、子どもが病気になった時にどうするか非常に重要な問題です。評価がDということで、説明では体制はあるということですから、仕事と子育ての両立支援からいうと、預けられる時に預かってもらえるような形に考える必要はあるかと思うがどうですか。

委員：家族が勤めていたら、仕事と育児の両立は厳しいのでこういう体制はとてもありがたいと思っているので、評価は低くても継続していただきたいと思っています。

委員長：ぜひ継続していただいて、対応をお願いしたいと思います。病児病後児保育は、どこも担当者が少なく、場所の確保も難しいとか大変なところが多いのですが、少しずつ良い方向へ進められたらいいと思います。ほか、ご質問はないですか。

委員：基本的なことですが、病児病後児保育の費用はどのようなのでしょうか。

事務局：1日1,000円、利用者から負担をいただいています。非課税世帯の方、生活保護世帯の方は無料でお預かりしています。この事業は、ニーズ調査で多くの希望がありましたが、概ね1日3名までで対応させていただいているが、毎日がいっぱいになっているわけではなく、利用のない日もあり、市としては、必要とする方についてはぜひご利用いただきたいという状況です。

委員長：病児病後児保育だけでなく、一時保育や、延長保育も、ニーズ調査で「こういう制度があったらどうですか」と質問すると、利用するかどうかは別として、あったらいいなという意味で回答することがあると現実と意向が乖離する。乖離があるから必要ないとか、計画の設定がおかしいとかではなく、あくまでもニーズ調査の数値から割り出していると考ええると、特に大きな問題があるわけではない。実際どれだけ利用されているかが注目すべきことです。委員の中にはニーズ調査内容が十分ご理解いただけてなくて、何でこんなに数に差があるのか、となると思ったので少し説明をさせていただきました。それでは2番目、11ページから21頁「安心して子どもを生き育てられる子育て支援の体制づくり」についてご意見等あればお願いします。

委員：13ページ65番、子育て支援ヘルパー派遣の項目ですが、利用はしなかったが非常に良いなと感じ知り合いにも勧めたいが、どんな人が来てくれるのか分からないのがネックだと思います。良いと思っている方はたくさんいると思います。出産前にでも一度面会できる機会があれば安心感があるので良いのではないかと考えます。

事務局：この事業は、妊娠からお子さんが1歳の誕生日を迎えるまでの間に支援させていただくもので、まずは、保健師の聞き取り等のうえサービスが必要な方に繋げるものだが、その中で、実際に支援に入る前に会っておきたいとか、逆にサービスさせていただく側もどのようなご家庭な

のかを把握しておきたいという場合については、事前に会うこともご案内していますが、昨年については2人の申請のうち、実際は1人で3回のご利用をいただいた状況です。サービスに入るヘルパーは介護事業所に委託し派遣いただき、基本的には決まった人が入ると思いますが、サービスに入る前にご不安があれば面会してから決めていただくというところで進めています。

委員：利用したい方に、そのように伝わればいいなと思います。ありがとうございます。

委員長：ほかの委員、いかがでしょうか。

委員：11 ページ、母子保健事業の1番の項目のリスクアセスメントを実施されているということですが、項目としてはどのようなものを上げているのか教えていただきたいです。

事務局：母子手帳の交付が、子どもが生まれる前の妊婦さんに関わる1番の窓口です。リスクアセスメントシートですが、県でも検討され、そこに市の必要事項もプラスしてあります。家族構成や、妊婦さんの病歴、産前産後、特に産後に、支援をしてくれる方がいるかの生活環境の聴き取りをします。また、妊婦さん自身がこの妊娠についてどう思われているか、嬉しいと思ひ母子手帳を取りに来たのか、不安を持って来ているのか、妊娠を嬉しいと思われているか家族で違うこともありますし、経済的な問題で育てていけるかどうか、いろんな不安の材料があり、どのような不安を抱えているのかお聞きします。このように、別室で2〜30分以上かけ聞かせていただくのが、このリスクアセスメントです。支援が必要な妊婦さんには、これからの支援につなげます。

委員：児童虐待の問題で幼い子どもが命を落とす中、妊産婦の時期から保健師、看護師がそういう視点を持った支援をすることで予防できないか、生まれてからできる支援がないかと取り組みをしているのをテレビで見て、関心があり聞かせていただきました。ありがとうございます。

委員長：ほか、いかがですか。

委員：21 ページの97、98 番の園だよりを発行、とあるのは伊賀市が情報提供して発行しているのか、各園の状況を載せているのか。名張では名張市からメールで来ていたので、どういう形か教えていただければと思います。

事務局：保育所（園）だよりは、内容は確認していますが園ごとの行事も内容の1つとなってますので園ごとに作成しています。全体として注意していただきたいことは、どの園にも載せるように情報提供している状況です。

委員：保健だよりも各園ですか、市で保護者に伝えたいことを作成することではないですか。

事務局：食事だより、保健だよりは、保育幼稚園課に管理栄養士がおり、食中毒の時期や熱中症の時期は情報提供しています。作成は、各園で作成してます。

委員：各園で情報提供した内容は伊賀市に送らなければならなかったのか。うちの園では、園内で作成しているが市に送っていないですし、どういう形で評価がでているのでしょうか。

事務局：この目標に載せているのが、保育所の分として載せてあり、昨年から認定こども園になっていただいたのですが、計画上は、白鳳幼稚園、青山よさみ幼稚園さんを対象施設として載せていない状況で、報告のお願いをしていません。今のところは、提出を求めない予定です。

委員長：ほかの委員の方、よろしいですか。

委員：11 ページ母子保健事業6番のこんにちは赤ちゃん訪問事業は、無事に生まれてきてくれた赤ちゃんに対しての事業だと思いますが、そうでないお産を経験されたお母さん達を訪問する事業はできないでしょうか。

事務局：母子手帳を発行して、その後、妊婦健診を14回無料で受けていただいています。この妊婦健診の受診状況を追いかけており、途中で受けていない方がいることが起こってきます。これについてはデリケートな問題で、検診が途中で途絶えた時には、分かる範囲で調査をしたり、電話をしたり、可能な範囲で話を聞かせていただき、うまく繋がる時には必要であれば家庭訪問したり面接することもあります。計画に載せる事業として上げることは出来ない状況です。

ただ、次の妊娠をされた時にアセスメントシートの中で、このようなお話も聞かせていただきますので、その時には、支援していく妊婦さんとしてお話を聞くこととなります。

委員長：ほかいかがでしょうか。

委員：11ページの、こんにちは赤ちゃん訪問事業で、外国の方の訪問が難しいという話がありました。難しいとあるけれども、保育園でも出来ることがあればというところで現状を詳しく教えていただきたいのと、12ページの58番、不妊治療に対してのフォローで、子どもが欲しいがなかなか授からないとか、治療に通われている方の話を聞きますが、評価はBで、十分な実施が出来ていないということですが、ニーズがあるが支援がしきれないのか、かなり高度な治療をしたときのみ助成があるのか、産婦人科へ不妊治療に通っているだけでは情報が行き渡らない状況にあるのかを教えてください。

事務局：こんにちは赤ちゃん訪問は、外国人さんのお宅に行く際は、可能な限り市民生活課の通訳に依頼して、スペイン語、ポルトガル語については同行訪問することが可能ですが、いろんな国籍の方がいるので通訳の問題が難しいです。家族で通訳できる方が居るときに訪問することもあります。また、通訳機器やアプリの導入ができないかと検討しています。40数か国語に対応できるものもあるようです。また通訳の問題だけでなく、住所登録があるが居住実態がない人もあります。電話をかけても繋がらない、訪問予定のお手紙を入れても返答がないなど、手立てを考えてはいるがそのような状況です。

不妊治療につきましては、特定不妊治療、一般不妊治療、男性不妊治療、二人目以降の不妊治療、不育症治療などがあります。所得制限があるので、治療を受けても、市の事業に乗せられない方もいます。所得が730万までの所得の方は県から補助があり、市ではそこに上乗せして300万円未満の方に、治療により金額は変わりますが、助成しています。ここでの実績は、市で追加支給をした方です。県から補助を受けているのは108名です。また、事業の周知は、産婦人科で、事業の対象になる場合は意見書を書いていただきます。所得で対象外の方はいますが、先生から周知いただきお問い合わせいただく場合もありますので大丈夫だと思っています。

委員長：それでは、3、子どもの健全育成を推進するための体制づくりに移りたいと思います。22ページから34ページです。ご意見等がありましたらお願いします。

ここはよろしいでしょうか。（意見なし）

それでは、また何かありましたら後で発言いただければと思います。

では、4番目の仕事と生活の調和、35ページから37ページの事業について、いかがでしょうか。ここは評価についてはA A～B とほぼ事業に対しての達成率が高いのは特徴として出ています。例えば、企業への理解は、企業に理解していただくことや、労働時間の短縮、有給の問題とか、もちろん市でも取り組むべき課題ではあります国自体がそのことにも提言していますので、重要な事業のひとつかなと思います。男性、女性が共同参画していくフォーラムを開催していますが、36ページ58番で男性を対象にしたであるとか、出前講座を開くとか、積極的にいろんな取り組みをされていますが、その辺りも含め何かありませんか。

委員：商工会議所は婚活事業ということで助成をいただき、昨年も3回のイベントを開催しました。今年も2回の開催を予定していますが、この助成はいつまでいただけますか。

事務局：本年度は予算の確保をしています。以降も重要な事業と考えており予算確保に努めたいと思っておりますが、限られた財源の中ですので、必ず来年、再来年の継続を今のところ申し上げられないのですが、予算確保に努めていきたいと考えています。

委員：成果としては、カップル成立など聞かせていただいておりますが、最終的に結婚まで追っていないので、その辺りが課題だと思っています。個人的なところもあるので難しいのですが、なるべく続けたいと思いますのでよろしくお願いします。

委員長：ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。いろいろお聞かせいただきありがとうございました。また何かありましたら担当からお答えいただければと思います。では、事項書（2）へ進みたいと思います。

（2）第2次子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について 「資料2」「資料2-1」

委員長：第2次子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について、この事業計画は27年から31年の5カ年で区切りが付きます。次の5カ年に向けた準備のためのニーズ調査です。先ほどお話したように市民の方を対象として調査を行い、それに基づいて5カ年の事業計画をたてることとなりますので、そのことの説明があると思います。説明をいただき質疑応答をします。

（事務局説明）

委員長：全国の市町村が対象となる大規模な調査です。地域のニーズや動向をつかみ、これからの子育てに関してのさまざまな施策も含めて重要な資料になると思います。質問項目は国から出されるものや、市独自のものがあり、項目が多いと回答率が上がらない、また項目が少ないと荒い調査になり、細かいニーズが取り込めないことがあるので、調整しなければならないと思います。

第1回目に実施し明らかになったことも随分ありました。市民の方々には負担をおかけしますが、きちんと調査をした方が良いと思います。継続的に実施するとその変化や動向がつかめるので、一方的にその施策を公表するのではなく、このような機会を利用して子育てや、子どもに対

してのニーズを把握するのは重要ですのでご理解、ご協力をいただきたいと思います。今回、新しい部分で中学生が入ってきたと思うのですが違いますか。

事務局：そうです。前は就学前児童と小学校1年生から3年生までの調査でした。今回中学生を考えているのは、子どもの貧困をめぐる対策に関することを調査項目として考えており、そのことを聞くのは中学生を持つ保護者の方がよいのではないかということで、予定をしています。

委員長：次回は調査が終わっている段階でしょうか。

事務局：そうです。調査が終わり、クロス集計の結果等が荒いものではあるかも分かりませんが、お示しできると考えています。

委員長：項目等については、担当の方と含めて進めたいと思いますので、次回、この会議が開かれる時には、この調査のある程度の結果が分かると思いますので期待をして欲しいなと思います。特に、貧困の問題は今深刻な問題で、伊賀市の子どもたちの状況を一部垣間見ることができるのではないかと思いますし、具体的な策を講じることにも繋がると思います。前回調査の内容は、伊賀市だけでなく他の市町も聞いてみたが、項目もたくさんあり大変だったという意見と、もう少しこういうところも聞いて欲しかったという意見も耳にしました。その辺りを慎重に考えてたいと思います。よろしいでしょうか。また何かあれば担当に聞いていただければと思います。

(3) 少子化対策推進委員会条例の一部改正について

「資料3」

(事務局説明)

委員長：名称が変わること、保育所（園）のあり方検討部会の設置、この2つでした。名称の件は、「少子化対策推進委員会」が「子ども・子育て会議」になるということです。実際は今までの形で進めていくことになるが、名称が変わります。理由については資料のとおりです。ここは特に問題ありませんか。今の形からいうと、広く、育てや、子どもに対しての問題点について考えながら、結果として、少子化対策に繋がるということだと思いますし、個人的に言わせてもらおうと、少子化は社会的なキーワードになっていますが、もっと広く子どもの福祉や教育を見据えた形での事業計画を進めたほうが分かりやすいという思いがありますので、この件は妥当だと思います。他の市町を見ても、ほとんど子ども子育て会議という名称になっているので、そういう意味でもご理解いただきたいと思います。

2番目は、保育所（園）のあり方検討部会で、これも説明のとおりです。市民の方にご意見を伺いながら、これからの方向性を見ていきたいということです。子どもたちの数が減ったり、人口動態などいろんな状況が変わってきている中で、これからのあり方を検討していくことは非常に重要なことになると考えるので、この部会の設置についてもご理解いただければと考えています。何かご質問等があればお願いします。どうでしょうか。

委員会としては、この件をご承認いただけますか。（承認）

特に異論がないようですので、この2つについて進めるということをお願いします。

(4) 私立白鳳幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行について 「資料4」

(事務局説明)

委員長：質問があればお願いします。保育料と幼児教育の無償化との関連はどうでしょうか。

事務局：新聞等で政府が幼児教育の無償化といわれていますが、正式な通知は来ていませんので、どのような形になるかは不透明なところがあります。

委員長：ありがとうございます。消費税2%の増加分をと、不確かではありますが聞いたのですが、それはそうなのでしょうか。

事務局：私どもも新聞等の報道の範囲での情報ですが、消費税の増額分で来年10月からと聞いていますが、先日の全国市長会では10月は充当の時期なので、半年伸ばし4月からにして欲しいという要望が出たと聞いています。

委員長：幼児教育の無償化は日本では前例がなく、その意味では非常に注目されるし、実現されれば、その頃のお子さんがある家庭の経済的負担軽減はかなり大きいものと考えます。ただ、どういう方向に行くか、まだ見えていない部分もあります。何か質問があればお願いします。

委員：現状の保育料が18,000円で、変わりますと所得に応じて変動があるということですが、保育料が倍増するとか、少し減額になるとか、およその想定は把握していますか。

事務局：白鳳幼稚園が新制度に移行すると、既に認定こども園である青山よさみ幼稚園と同じ料金表になり、11階層で上限が18,200円、一番安い人が0円です。現状、保育料を18,000円と載せていますが、従来の制度は補助金制度があり、月々18,000円を一旦お支払いいただき、該当の方には所得に応じて補助金でお戻りする制度でしたので、負担はそう変わらないと考えています。

委員：保育所(園)に外国の子どもがおられ、保育園だよりを日本語で書いていると思うが、保護者に知ってもらおうと思ったら、日本語で渡しているだけで、問題が発生していませんか。

事務局：外国籍の方で、理解していただけない方には、原稿を保育幼稚園課通訳が翻訳して園に返し、配布しています。ポルトガル語はその対応だが、言語の種類がかなり多くなっており、課題になってきていることは否めないと考えています。

委員：保育所(園)の先生方と、保護者の方の思いが通じないと、子どもがかわいそうだと思ったので聞かせていただきました。まだまだ日本語が話せない保護者の方も増えてくると思われます。経費のかからない方法を考えて住民サービスに努めていただけたらありがたいなと思います。

委員長：ありがとうございました。最後に全体をとおして何かありませんか。

委員：保育所で未満児を受け入れるという事業ですが、未満児の入園で4~6歳児の園児のお部屋がなくなっているという話を聞いたことがあるが、それに対し何か対策をされていますか。

事務局：近年では、大山田保育園で定員をかなり上回る児童数を受け入れてきました。去年は遊戯室を通常保育にも活用する工夫をして対応しましたが、4歳5歳児が、部屋にたくさんの児童が入らなければならない状態になっていました。本年度は子育て支援センターで使っていた場所を保育室に改装し使用できるように改修し対応をしました。他の園も、一部遊戯室を通常保育に使用しないと運営できない園がありますが、各園、工夫をしながらニーズに対応している状況です。

委員：ありがとうございます。

委員長：よろしいでしょうか。基準がありますので子どもたちのスペースも含め対応をお願いしたいと思います。保育を受けるのは子どもですから、悪い環境にならないように十分気をつけていただきたいと思います。他の委員、いかがでしょうか。

委員：障がいのあるお子さんをお持ちの保護者が、どういう制度があって、手帳にしても障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳とか詳しく分かりませんが、手帳を持つことによって、どのようなサービスを受けられるか説明いただける場はありますか。

事務局：身体障害者手帳、知的障害のある方の療育手帳、精神に障がいのある方の精神保健福祉手帳がありますが、窓口は健康福祉部障がい福祉課です。手帳の交付時に、制度利用の案内ガイドブックをお渡しし説明させていただきなかで制度のご案内をしています。数十ページに渡るので見づらいものにはなるのですが、お問い合わせもいただけたらと思っています。

委員：小学校に勤めていると、そういうことが分からないと問い合わせを受けますし、医療機関で健診の時に、同じことを何度も説明しないといけないのが苦痛だという方もおり、小学校でも引継ぎのシートがあるので、引継ぎができるものがサービスとしてあればと思います。

事務局：保護者の方にもご記入いただくところがあるサポートファイルを、数年前に関係機関の皆さんと一緒に考えさせていただき作りしました。今後、それらも活用いただけたらと思います。保護者からはライフステージが変わる小学校入学、中学校入学のたびに、同じことを言わなければならないということを早くから聞いており、そういうことがないように、関わらせていただくものが直ぐに分かるようにということも含めて作らせていただきましたので、今後ご活用いただけたらと思います。

委員：サービスがあるけれども、あることが伝わっていないことがあるように思います。いろんなことをしていただいているので、啓発していただけるとありがたいです。

事務局：私どもも、サービスを知って、使っていただき初めて事業が成り立っていくものですので、分からない方がいらっしゃいましたら市役所へなどとお声かけをいただきたいと思ひますし、ガイドブックがお手元にあればお話をさせていただけたらと思ひます。

委員長：ほかよろしいでしょうか。

委員：このような計画があり、保育園ではこの5年ぐらいで保健師さんとの連携や障がい気になるお子さんのことに関わる中で、こども発達支援センターがかなり機能し、園や学校を訪問し、

詳しい話を聞いたり、保護者と面談をいただいたり、必要であれば手帳の交付やサービスに繋いでいただき、ありがたく思っています。今後とも連携をよろしくお願いします。次回の会議は市庁舎に移転後かと思いますが、入ったら直ぐに、市民に必要なサービスが分かるように計画を進めていると聞かせていただきました。建物が全てではないですけど、移転後は市民の混乱もなく充実したサービスをお願いできたらと思っています。また、伊賀市の小児医療の体制は市民病院のことや、開業医も今開業されている方が高齢になり、後が続いていかれることがかなり厳しい状態だと聞かせていただいているので、引き続き小児の医療体制についても考えていただけたらありがたいなと思っています。

委員長：ありがとうございました。要望ということでお聞きいただければと思います。それではこれで、全体の事項を終わらせていただきたいと思います。その他で、事務局から連絡があります。

3. その他

事務局：先ほど議題3でご承認いただきました「少子化対策推進委員会の一部改正」に関連して、伊賀市子ども・子育て会議に名称変更することに伴い、委嘱させていただいている皆様の辞令につきましても再度新しい会議の名称で発行させていただくことになります。お願いさせていただく手続きについては、9月議会で議決後10月上旬には通知させていただく予定をしていますが、皆様には現在のそれぞれの任期から改めまして10月1日から2年間の任期で「子ども・子育て会議」にご参画いただきたいと思いますと考えています。もちろん今までと変わらず、各団体様の異動や、保育所(園)のご卒園に伴う委員の変更につきましてはその都度ご対応させていただきますので、年度初めには異動を確認のうえ進めたいと思っています。現在2年間のそれぞれの任期となっていますが、10月に新たに委任させていただきますので、半年または1年、任期が延びる方もいらっしゃると思いますが、ご了解いただきたいと思います。ご意見、ご不明な点などありましたらお聞かせいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委員長：ご意見よろしいでしょうか。(意見なし、了解)

それでは、本日の会議はこれで終了です。また次回、2月頃を予定されていますので、またご参加いただきご意見をいただければと思います。

事務局：本年度、第2回目の会議につきましては年度末2月頃を予定しています。詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。子ども・子育て支援事業全般につきまして、お気づきの点がありましたらこども未来課までご連絡いただけたらと思います。本日はありがとうございました。(1:56:00/1:56:00)